



発行所 いわき民報社 平市田町一番地電話三八一 編集長 野村 千鶴 印刷 日刊 但月曜 定価 一月十円 一週五円

鹽干品類の取扱

當局の態度に注目

果た問題となつた

鮮魚登録制配給をめぐり、小賣店の顧客争奪戦はもの凄いのがあるが、縣の配給通帳の附則事項第二項に鹽干品、煉製品、海藻類等については指定消費地域内は鮮魚配給に準じた取扱により配給することとある。俄然問題となつた、即ち右によつて従来鹽干品のみ取扱つた店も鮮魚を取扱はねと今度は小賣店が自然顧客から見捨られることとなる。ところが一般に鮮魚のみを目標とした登録小賣店は十店を除いては殆ど純然たる鮮魚店のみであり、この點如何に處理するか、又四十軒近い鹽干物取扱店は現在ではこれ又十店は除いては一店も登録していないので、これを如何にするかは營業がたゆまなくなる。縣の態度が注目の的となつて来た。

御注意

消費者の小賣店登録にあたり、どこでも一軒に登録して置けば今日の配給は甲で受け、明日の配給は乙で受け得るが如く誤解している向も多いが、市では今度登録すると向う三ヶ月間登録更改期まで、その登録店に縛られることになるから、登録に當つては慎重に自己の望む信する店を選ぶことが大切であると注意している。

遂に分割分村

きのう最後の會談

小名濱町の舊玉川分村を認め再會の後、問題の最後約會談は二樋口町長から最後案として十三日午後一時から第三十小學校講堂に地方事務課を占めた岡小名、南務所から芳賀總務課長富岡、林城の三部落を、臨時、町側からは樋口除いての分割を妥協と連及び舊玉川村側の非分村派と分村派の代表約百名が出席し樋口町長を議長として開會した。分村派及び非分村派の意見の開陳がそれより六月一日から戸別配達を實施するおお營園ではこれに備へて陣容を強化した。

お米の配達

今度こそ本當に

食糧平出張所では配給午後二時から配給物資飯米配達制實施に對し委員を開き二十一年度報奨用物資織維製品二百十三點、絨物五十點、自轉車タイヤ及びチューブ四十四本、△グツ三七七足の農家割當その他農家必需品の入手確保等について協議する。

言寸きわい

△喧嘩かつた鮮魚登録配給。△小名濱と舊玉川に分割分村とさるる。△分村派と非分村派の果して村がたちやくか。△感傷に走つての岡。△折角の電氣利用の闇も。△折角の電氣利用の闇も。△折角の電氣利用の闇も。△折角の電氣利用の闇も。

苗の腐敗病

海岸地帯に甚しい

郡下町村の稲苗代はささい程度は病が發生、郡下では約三十町歩ちかくがほとんど全滅におちいつている。なかでも海岸地帯の豊間、江名、小名濱、四倉、泉、高久、草野、大浦等の町村の被害は甚だしく被害地の各町村では農業技術員、青年團員等が總出でふは病除消毒をなすなどして、なお農業會石城支部調査によつて例年よりやゝ多

チンピラの二

脅迫三人組

赤井 湯本町の湯本町會議一東、土木委員會は二十五日開き新舊校舍修繕工事、公衆便所、塵焼却場住宅建設等を二十六日町政廳開會を更に二十七日は教育審議委員會を開き教育審議内規を新制中學校(湯本及常磐)豫算を審議する。

電氣ぬい

白米二俵

列車の開通に悲鳴をあげた。△折角の電氣利用の闇も。△折角の電氣利用の闇も。△折角の電氣利用の闇も。△折角の電氣利用の闇も。

本市の配給物資委員會

市勸業課では二十六日

中旬の赤字

常磐炭田出炭成績

常磐炭田中旬の出炭成績は東北管内が五萬六千トンで三千七百四十トンの赤字、東部管内（茨城）も二千七百八十九トンの赤字の一萬八千二百六十一トンで結局目標七萬五千四百トンの對し六萬八千八百七十一トンの実績で六千五百二十九トンの赤字を示した、原因は資材不足と悪天候に祟られ排水難であつたのと入坑率の低下によるものである。

○品川黒田六七九（六〇〇）七九 三和六九〇（五〇〇）一九〇 田川一、五一九（二一八）〇〇〇一、二八一 其の他七、八〇〇一、一〇〇〇三、二二〇〇

郡農業會、技術員會

農業會石城支部では二十六日午前十時から支那樓上に技術員會議を開き六月中の實施事項を決定すると共に苗代の注意、麥類のウドンコ病豫防驅除等についての指示等を行つた。

成績

湯本鐵は黒字、東北各鐵別の出炭成績をみると左の通りである（括弧内目標・印減）

常磐ん湯本九、〇二二（二八、五〇〇）五二二

○同内郷七五七五（七、七〇〇）〇二二

五、同いわ崎三、三二五（二、四〇〇）九二五

二五、古河好間八、四五五（七四〇〇）一〇五五

○五五、大日本勿來三、七一六（四八〇〇）一〇、八四〇

小田一、二九九（一、七〇〇）〇四〇一

隅田川一、〇九八（一、一五〇）〇五二

矢郷六九六（六〇〇）九六 壽四三〇（五〇〇）七〇 戸部五八二（五〇〇）八二

上山田六五七（一、一〇〇）〇四四七

日曹赤井一、四四二（一、四五〇）〇九

日曹福島五二〇（四、四〇〇）

文化服裝學院公認

六月中旬盛大に祝賀會を平文化服裝學院は三月昇のカメラ岡田嘉子も二十五日附をもつて公姿をみせている時代物

父服部昌作

母 濱 子

娘 飯田 蝶子

姉 京 子

父新海幾造

母 杉 子

長男 惠太郎

次男 精二

重子の友悦子

高杉 早苗

八重子の家と惠太郎

映画紹介 隣の八重ちゃん

二十七日一平館

ボブに風さすやくく戀知る頃の切なく甘い想ひ出！島津保太郎原日曹福島五二〇（四、四〇〇）

兄弟の家とは實に睦むかしの日か経つと共に京太郎兄弟のボールが八た。しかし惠太郎は重子の家のガラスを破れを容れしなかつた。野球の豫選に勝つた喜びの日、隣家では京子の家出事件が起つた。その上八重子の父昌造の轉勤が重なつた。八重子は涙ながらに荷造りを手傳ひ、長い間の仲よし惠太郎達の家もさよならしなければならぬ寂しさを耐へた。しかし八重子は許されて卒業まで惠太郎の家で居ることになつた。隣りの八重ちゃんの家で、八重子やその友人悦子に會ひ、靴下を繕つてやつた八重子が惠太郎と仲良しに笑つてゐる頃、八重子の姉京子が八重子から出戻つて來た。ある日惠太郎はその京子を慰めてやつたが、見ても八重子には何と知らず胸のいたむのを覺えた。その夜も惠太郎兄弟と八重子姉妹は活動見物に出掛け、見てゐる間も済んで一躍にお茶を飲む間も何となく挑發的な京子の惠太郎への仕草が、八重子には不安でならなかつた。八重子の氣持を知つてか知らず御禮の爲

不着の配給 平市ではさきに對當られた職域用特配の服地のうち男物三百六十余着が不着なので現品着をまつて特配する、到着は二十七日、八日頃の豫定

加工 縫製 染整 洋装 各種 見本 新柄

京屋染工場 長岡 勇 平市南町大通り 電話六九四番

グレース・テックス 格安提供 是非當社に御用命ラ 是非當社に御用命ラ 是非當社に御用命ラ 是非當社に御用命ラ

麻雀

至急入用 至急入用 至急入用

給仕婦 給仕婦 給仕婦

カマ 小坂 名林 店主

五月人形を 二十三日より三日間 大特賣致します

平野前中央通りわき民報社隣 大和屋酒店内 東京人形問屋 王扇

御禮の爲